



# Sun Fire™ E2900/V1280 PCI-X I/O アセンブリ設置マニュアル

---

Sun Microsystems, Inc.  
[www.sun.com](http://www.sun.com)

Part No. 819-3348-10  
2006 年 6 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、Java、AnswerBook2、docs.sun.com は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植の可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法(外為法)に定められる戦略物資等(貨物または役務)に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun Fire E2900/V1280 PCI-X I/O Assembly Installation Guide  
Part No: 819-1842-10  
Revision A



# PCI-X I/O アセンブリ設置マニュアル

---

このマニュアルでは、Sun Fire E2900/V1280 システムの PCI-X 対応 I/O アセンブリの取り付けについて詳細に説明します。

---

## ファームウェアおよび Solaris オペレーティングシステム (Solaris OS) の要件

Sun Fire E2900/V1280 システムに PCI-X サポートを追加するための要件を、次に示します。

- Sun Fire E2900/V1280 システムには、次の SCAPP ファームウェアが必要です。
  - SCAPP ファームウェア version 5.20.0 またはそれ以降の互換性のあるバージョン
- UltraSPARC III または IV プロセッサが搭載された Sun Fire E2900/V1280 システムでは、次のいずれかのバージョンの Solaris OS が必要です。
  - Solaris 8 2/04、Solaris 9 9/05、Solaris 10 3/05 HW1 OS、またはそれ以降の互換性のあるバージョン
- UltraSPARC™ IV+ プロセッサが搭載された Sun Fire E2900/V1280 システムでは、次のいずれかのバージョンの Solaris OS が必要です。
  - Solaris 9 9/05、Solaris 10 3/05 HW1 OS、またはそれ以降の互換性のあるバージョン

使用しているシステムで、Solaris OS および SCAPP ファームウェアの両方をアップグレードする必要がある場合は、まずハードウェアを取り付け、次にファームウェアをアップグレードして、最後に Solaris OS をアップグレードしてください。

使用しているシステムで、ファームウェアのアップグレードのみが必要な場合は、まずハードウェアを取り付けて、次にファームウェアをアップグレードしてください。

---

注 – ファームウェアおよび Solaris OS への依存性に関する最新のパッチ情報については、[www.sun.com](http://www.sun.com) の SunSolve<sup>SM</sup> パッチポータルを参照してください。

---

---

注 – Solaris 8 および Solaris 9 の OS を使用しており、これまでに IB\_SSC アセンブリを PCI+ にアップグレードしていない場合は、ハードウェアに付属の DVD を使用して PCI-X を取り付ける前に、適切なバージョンの DVD0 を使用してください。Solaris 8 または Solaris 9 を使用しており、すでに IB\_SSC アセンブリを PCI+ にアップグレードしている場合は、DVD0 を使用する必要はありません。

---

---

注 – Solaris 8 および Solaris 9 の OS が動作しているシステムで、ハードウェアに付属の DVD/DVD0 以外の方法で PCI-X を取り付ける場合は、次の「Solaris 8 OS のインストールオプション」または「Solaris 9 OS のインストールオプション」のいずれかの節を参照してください。

---

## Solaris 8 OS のインストールオプション

DVD/DVD0 を使用して OS をインストールしていない場合、システムに新しいハードウェアを認識させるには、ネットワークベースの JumpStart インストールを実行してから、次のいずれかのオプションを使用してシステムにパッチを適用します。

- 手動でパッチを追加する
- JumpStart プロセスを変更して自動的にパッチを追加する
- パッチが適用されたシステムのフラッシュアーカイブを作成する

### 手動でパッチを追加する

1. 使用している Solaris 8 2/04 OS メディアからネットワークインストールイメージを作成します。手順については、『Solaris 8 のインストール (上級編)』の「ネットワーク上でインストールする準備」の章を参照してください。
2. JumpStart を実行して、このイメージから Solaris 8 2/04 OS をインストールします。
3. システムの起動後、116962-09、108974-47、111792-13、および 117000-05、またはそれ以降のパッチをインストールして、再起動 (boot -r) を実行します。

## JumpStart の終了スクリプトを作成し、インストールプロセスの一部として 116962-09、108974-47、111792-13、117000-05、またはそれ以降のパッチを追加する

1. 使用している Solaris 8 2/04 OS メディアからネットワークインストールイメージを作成します。手順については、『Solaris 8 のインストール (上級編)』の「ネットワーク上でインストールする準備」の章を参照してください。
2. 終了スクリプトを作成して、116962-09、108974-47、111792-13、117000-05、またはそれ以降のパッチをインストールします。『Solaris 8 のインストール (上級編)』の「カスタム JumpStart オプション機能の使用」の章にある「finish スクリプトによるパッケージとパッチの追加」の節を参照してください。
3. JumpStart イメージを使用して Solaris 8 2/04 OS をインストールします。このイメージは、終了スクリプトを使用してパッチをインストールします。

## パッチが適用されたシステムのフラッシュアーカイブを作成する

1. 2 ページの「手動でパッチを追加する」の手順に従って、システムを設定します。
2. このパッチが適用されたシステムを使用して、フラッシュアーカイブを作成します。
3. 『Solaris 8 のインストール (上級編)』の「フラッシュの概要と計画」の章で説明されているように、このアーカイブを使用して、ほかのシステムに Solaris 8 OS をインストールします。

---

## Solaris 9 OS のインストールオプション

DVD/DVD0 を使用して OS をインストールしていない場合、システムに新しいハードウェアを認識させるには、ネットワークベースの JumpStart インストールを実行してから、次のいずれかのオプションを使用してシステムにパッチを適用します。

- 手動でパッチを追加する
- JumpStart プロセスを変更して自動的にパッチを追加する
- パッチが適用されたシステムのフラッシュアーカイブを作成する

## 手動でパッチを追加する

1. 使用している Solaris 9 9/05 OS メディアからネットワークインストールイメージを作成します。手順については、『Solaris 9 のインストール』の「ネットワークインストールの準備」の章を参照してください。
2. JumpStart を実行して、このイメージから Solaris 9 9/05 OS をインストールします。
3. システムの起動後、112954-13 以降のパッチをインストールして、再起動 (boot-r) を実行します。

## JumpStart の終了スクリプトを作成し、インストールプロセスの一部として 112954-13 以降のパッチを追加する

1. 使用している Solaris 9 9/05 OS メディアからネットワークインストールイメージを作成します。手順については、『Solaris 9 のインストール』の「ネットワークインストールの準備」の章を参照してください。
2. 終了スクリプトを作成して、112954-13 以降のパッチをインストールします。  
『Solaris 9 のインストール』の「カスタム JumpStart オプション機能の使用」の章にある「finish スクリプトによるパッケージとパッチの追加」の節を参照してください。
3. JumpStart イメージを使用して Solaris 9 9/05 OS をインストールします。このイメージは、終了スクリプトを使用してパッチ 112954-13 をインストールします。

## パッチが適用されたシステムのフラッシュアーカイブを作成する

1. 4 ページの「手動でパッチを追加する」の手順に従って、システムを設定します。
2. このパッチが適用されたシステムを使用して、フラッシュアーカイブを作成します。
3. 『Solaris 9 のインストール』の「フラッシュの概要と計画」の章で説明されているように、このアーカイブを使用して、ほかのシステムに Solaris 9 OS をインストールします。

---

## プロセッサの要件

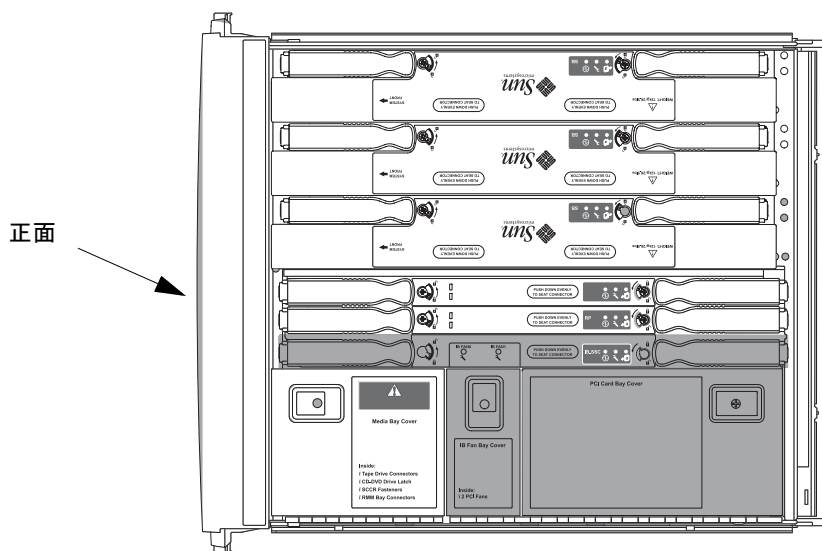
PCI-X I/O アセンブリは、次のプロセッサを搭載するドメインでサポートされます。

- UltraSPARC III
- UltraSPARC III+
- UltraSPARC IV
- UltraSPARC IV+

---

## I/O アセンブリの位置

次の図に示すように、これらのシステムの I/O アセンブリ (IB6) は、IB-SSC アセンブリに組み込まれています。



---

## I/O アセンブリの取り外しおよび交換

このシステムの I/O アセンブリ (IB6) は、IB\_SSC アセンブリに組み込まれています。IB6 を交換するには、IB\_SSC アセンブリを交換する必要があります。IB\_SSC アセンブリの取り外しおよび交換と、以前のアセンブリから引き続き使用する I/O カードの取り外しおよび交換については、システムのサービスマニュアルを参照してください。アセンブリを交換し、I/O カードをふたたび取り付けたら、システムを再起動します。



---

**注意** – 取り付ける前に、交換用の IB\_SSC アセンブリのコネクタを保護するプラスチック製のカバーを取り外したことを確認してください。カバーを外さないと、バックプレーンが損傷する場合があります。

---

---

**注** – IB6 リーフ (2つのスロット) 内で異なる周波数を混在させることはお勧めしません。これは、リーフスロットが、リーフ内に取り付けられたカードセットの中のもっとも低い速度およびもっとも低いモードで動作するためです。たとえば、33 MHz の PCI カードをスロット 0 に、100 MHz の PCI-X カードをスロット 1 に取り付けられた場合は、いずれのリーフスロットも低い方の 33 MHz PCI 速度で動作します。IB6 リーフは、スロット 0 と 1、2 と 3、および 4 と 5 の組で構成されます。PCI カードスロットの配置については、Sun System Handbook を参照してください。

---